



毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)

二 圭 田 須 兼 輔 編 輯 人 行 發
市 田 上 縣 野 長 所 行 發
校 學 門 專 絲 蠶 田 上 同 所 行 發
會 町 縣 南 市 野 長 所 行 發
社 會 式 株 關 新 日 每 濃 信 所 刷 印

山本三六郎著 化學純絹絲の工業的完成 ￥0.30
伊太利蠶絲絹業の現況 原因と其 蠶絲業法規要論 ￥1.50
菅原勇治著 蠶絲業法規要論 ￥2.30
市田上縣野長 會究研學科絲蠶 所行發 (振替長野6413番)

米國絹業事情

昭和七年三月二十一日

紐育某生絲商

米國の景氣は不相變好轉せず、近來一種のインフレーション政策をとりつゝあるも、一般は踊らせず、歐洲の狀態と一般心理に支配せらるゝ事も重要な原因と見らる、絲價は目下全然日本の不安定政情に伴ふ圓價の不活潑と爲替の激變甚しきため、下落一方にて金輸出禁止による輸出増加も期待致し難き狀態にて串價の下落は一般絹業者に不安を興へる事夥しく、之がためにかかりの損失を蒙りたる向もあり、従つて仕入の如き當用口一方にて見送りの態なるため取引は其の日に限られ先約の如き甚だ少なき事近年其の比を見ざる所である。絹業者としては固より安値仕入は歓迎すべき事なるべきも底無しに下落して少しも安定の見込たゞざれば、其の運用上故障を生ずる事多く、毎日の値段下落に悲鳴を揚るは強ち日本人のみではない、滿洲事變上海問題と對日本の事件は隨

分新聞紙上を賑はせ居るも現時は一先づ一服の態、一時懸念せられしボイコット熱も殆ど聲をひそめ、今後このまゝ推移すれば、遠からず全く消え失せる事と思ふ。
生絲品位は例の第三者格付のため反て悪化し來れる如く主因はセリブレイン偏重の影響と云ふべく、製絲方針がこゝにあるため織度に大節に整理に抱合に更に一般荷揃と、水の隙

事變後に於ける滿蒙の動向

新國家の建設 (續)

在滿洲

湯川秀夫

- 一、人民の欲せざるところは之を取消す
- 二、人民を迫害する官吏はこれを罷免す
- 三、人民は相互協力
- 四、官吏の俸給を増すこと
- 五、匪賊討伐のため公安隊員を増募し其の手當を増すこと

七、財政を公開すること
八、經費と税金の低減をなすこと
然して奉天省政府の財政を公表した。即ち次の如し。
省政府の財源は主として間接税を以てこれにあて、直接税は總てこれを地方に移譲し、完全な地方自治を實施する。

歳入二千二百萬元
歳出一千二百萬元
差引剩餘一千一百八十萬元・前年度に比すれば實に七千四百九十七万三千元の大減税である。
比較増減△は減 △は増 △は不
外交費 計上せず 千元
内務(教育費を含む) 三、四〇〇 △三、五〇〇
財政費 二、四〇〇 △三、三〇〇
實業費 三、〇〇 △三、〇〇〇
司法費 三、〇〇 △二、〇〇〇
軍事費公 三、〇〇 △三、四〇〇
安隊費 三、〇〇 △三、四〇〇
で、省收入の九割を軍事費に充てた學良政府と比すれば、民衆の負擔のいかに軽減せるかが判る。

廢止税目
侵稅四万一千元、木植稅六十二万三千元、中江稅
蒙鹽稅二千元、煙酒稅及牌稅三割
軍費附加稅十八万四千元、票照稅
各種十万二千元、
半減せる税目
新 舊
出產稅 千元 千元
豆稅 六、〇〇 三、二〇
油種稅 三、〇〇 三、〇〇
蠶糸稅 八、〇〇 三、三〇
地方移讓稅目
田賦、牲畜稅、營業稅、牙骨稅、煙酒牌稅、船捐稅、剪課稅、政府の發表に

よれば歳出を除いた剩餘は庶民福利施設に臨時費、官銀號整理費(兌換準備金費)等に振當てる豫定である。
吉林省政府の新施設
吉林省は昭和六年九月二十六日成立し、同二十八日公表されたので東三省に於ける獨立宣言發表の最も速かなりし政府である。
着々善政を實施してゐる熙洽氏の吉林省は、新施設の實あがり民衆は善政に歡呼してゐる。先づ小作制の改善に意を注ぎ、従來の請求に對し四分六割「小作人六分地主四分」を規定せる小作法を施行するなど銳意民福を圖つてゐる又(十一月二十日)左の布告及び減刑釋放の指令を發した。

施政方針布告
政治の本義は庶民の負擔を軽減するにあり、徳をもつて刑を緩やかにするは治國の急務なり、吉林は邊疆に位するため時勢に應じ改正を要するもの多し、本長官は既に二割の軍費附加稅を免除し更に在監囚は重輕罪たるを問はず犯情酌量で減刑を計り、政治要諦は民を安からしむるにあり、本長官の施設は實にこの精神に則り万難を排して進むものなり。

囚人減刑方針
一、無期徒刑は有期徒刑十五年に減す
一、有期徒刑十年以上は殘りの刑三分の一を減す
一、有期徒刑五年以上は殘りの刑二分の一を減す
一、有期徒刑五年以下は殘りの刑三分の二を減す
一、罰金科料は殘りの刑を半減する
以上

ハ、黒龍江省
日本軍のチ、ハル進出(十一月十日)により馬占山政権は根柢より覆滅した。之が爲めチ、ハルの總商會を初め支那側各團體は、黒龍江省新政權樹立問題に就き協議を進めて居たが、其の結果主席として張景惠氏を推戴する事に決した。然るに張氏は周圍の事情に依り暫時日和見的態度を續けてゐたが、諸方よりの懇望もだし難く二十六日頃に到りやうやく主席就任を決意し、先づ其の前提として同氏の最も信任する東省特別區顧問陸軍少將英順氏を正式代表に任命した。斯くて英順は同二十九日齊々哈爾濱到着江省要人玉春(元外交部特派交渉員)等と共に新政權樹立に關する下準備を進めてゐたが最近これを一先完了し、去る十二月五日江省代表十八名と共に張氏を迎ふべく哈爾濱に歸還した張景惠の出馬も近い。因みに新黒龍江省主席張景惠は現東省特別區長官である。

一〇、滿洲新國家の樹
立宣言近し
黒龍江省政權決定と共に、滿洲の新國家樹立は着々準備成り、近日その宣言を發表する豫定であると噂されて居る。新東北政權は聯省自治制で、支那特有の同業團體、修好團體村落の自警組織等ギルドに根據を置く、地方自治制を取るに決し、右諸團體が慣習法的權限を有する裁判權で一層擴大適法化し、從來の縣市政の中央隸屬を止めることとなした。各省は勿論地方自治體の權限を極度に擴大し、右原則による文治政府を連結した。聯邦政府の樹立すべき旨の宣言を發する筈であると傳へられ

て居る。尙作らるべき新國家は、滿蒙の經濟發展、三千万民衆の生活向上を基調とし、支那行政組織の大缺陷たる(一)官吏待遇の改行(二)金融通貨統制(三)減稅の三大方針を斷行し、門戸開放、外資歡迎と其の機會均等を對外に宣揚する筈である。

而して日露戦後日本が滿蒙開拓に着手して以來、そこに於ける安全は保障せられ資源は開發せられた結果民衆の幸福は漸増して來たので、其の結果が、五百万内外の人口が今日三千万を數へられる様になり、經濟市場として閉却することの出來ない地域とまで擴大されたのである。換言すれば支那に於ては全く無用であつた荒地を開拓して、今日の如く價値付けたのは、獨り日本の犠牲と努力の結果である。

滿蒙に斯くして、新國家が結成されむとする事は、全く畫期的最大記録を世界史に印することになるのであるが、この三千万民衆の幸福を正義國日本が率先して庇護することは斷じて不當なる所以は一片もないのである。由來支那本土に於ける支那人の滿蒙に對する觀念は、歴史的に本土に對する觀念とは全く異つて居るのである。それは丁度チベットに對する、或は新疆に對する、或は外蒙古に黒龍江左岸地方に對する觀念と殆ど同一に扱つて來て居るものである。従つて滿蒙に於ける施設と、制度とは、根本に於て差異が認められるのである。由來支那がこの地域に對して無關心で居た事實は史的立證に依つても指摘出來るのである。即ち清朝の隆盛であつた時代殊に文化的に武力的に最も充備して居た時代に於ても、殆ど無抵抗に他國の侵略に放任したのであつた。それはネルチヌク條約、愛暉條約、北京條約、天津條約等によりて、相次いで漸を追ふて北方に領土を喪失せし余波は、滿蒙を擧げて、ロシア國の席巻に全く任せられたのである。これを防

止して、支那の領土として保全してやつたのは、全く日本の正義に立脚した犠牲的決意の賜である以外に何物もないのである。

の損失を負ひ幾度びか改革を叫ばれながら今だに實施せぬは眞に遺憾である。將來に向つて漫然この多頭政治を併存することは、從來の歴史に鑑みて日本の滿蒙特殊權益の消極的放棄と見て大差ない。多頭政治の打破、一頭政治の確立は議論の時代に非ずして絶対必要の時代に達したるのである。

吾人等が滿蒙新國家の建設を待望する所以はこの果樹を益々培養してこの國家の繁榮、即ち、現住民族である。日、漢、滿、鮮、蒙の各民族がこの樂園を共同にして管理、經營して、結實させむと意圖する主張で全く人類愛の表現であり正義の主張である。

而して日露戦後日本が滿蒙開拓に着手して以來、そこに於ける安全は保障せられ資源は開發せられた結果民衆の幸福は漸増して來たので、其の結果が、五百万内外の人口が今日三千万を數へられる様になり、經濟市場として閉却することの出來ない地域とまで擴大されたのである。換言すれば支那に於ては全く無用であつた荒地を開拓して、今日の如く價値付けたのは、獨り日本の犠牲と努力の結果である。

領、遼陽、營口に點在し、在留邦人保護より、在留邦人取締を主眼とし在滿邦人により有害無益の存在と通稱され、特に今迄領事館又は領事分館が新設された場合當該所管の邦人は激減するを通例とす。

要之現在の四頭政治は其のまゝ單一化の不能により、滿蒙に於て國策を斷行する責任の分擔界限不明の爲め、換言すれば折角得たる條約上の權益を全責任を以て主張し遂行する、代表機關なきため日本は權利の上に眠つて居た。日本は東洋平和の大責任を危くも暫くおろそかにした。吾々は日本の現状にかんがみ、名稱の如何を問はず、滿洲に前記四機關を或は包含し、若くは之を統轄して指揮命令する唯一最高の機關の火急に必要を絶叫する。

關東廳は拓務省の管下にあり關東州及南滿洲鐵道附屬地の行政官廳である。滿洲行政の中樞たるべき關東廳は、國策遂行機關として組織上不備ありてか從來は全く無力であつた。關東廳は多頭政治中他の總ての直屬上級官廳たるの權能を與へるか、極度に縮小すべきである。

關東廳は拓務省の管下にあり關東州及南滿洲鐵道附屬地の行政官廳である。滿洲行政の中樞たるべき關東廳は、國策遂行機關として組織上不備ありてか從來は全く無力であつた。關東廳は多頭政治中他の總ての直屬上級官廳たるの權能を與へるか、極度に縮小すべきである。

今日何れの政黨にもハッキリした外地統治策はない。その實情から見ても、政策實行のため、總督なり行政上の長官等を更迭せねばならぬ議論は成立しない。それにも不拘從來政變毎にこのことであつたのは、明確な理由のないだけに、世人は政權

今日何れの政黨にもハッキリした外地統治策はない。その實情から見ても、政策實行のため、總督なり行政上の長官等を更迭せねばならぬ議論は成立しない。それにも不拘從來政變毎にこのことであつたのは、明確な理由のないだけに、世人は政權

7. 平面曲線、 $x^4 - x^2y + y^3 = 0$ を
追跡せよ。
注意 座標はすべて直交軸による
ものとす。
英語問題

Translate into Japanese.

1. Such facts as we know in Connection with the metabolism of respiration of the higher plants definitely point to a similarity between certain stages of this process and those of fermentation by Yeast. In the Case of the latter organism there is a great accumulation of knowledge, and so rapid is the progress of experimental research that it is scarcely possible give an up-to-date account of the subject. Since knowledge of the metabolism of respiration is scanty in regard to the higher plants, the simplest respiration by Yeast will suffice for the present as a possible model for the higher plants.

2. The world of life presents and almost infinite variety of different forms. The species of animals that have been described number several hundred thousands, and the total number of living species must certainly be over a million. When we add to these the numerous species of plants and animals constitute but a small fraction as compared with the number which have lived in previous geological ages, we may be able to form some conception of the vast multitudes of diffe-

rent forms which have come into being upon our earth.

3. The importance of tropical agriculture in the commerce of the world is increasing daily. Sugar, coffee, tea, cacao, fibers, rubbers, and the hundreds of other tropical products hold a large place in international trade. Year by year new tropical products, previously unknown to most of us, are added to the list of the world's economic products. The English, French, Dutch, and Belgians, are putting forth earnest efforts in the development of their tropical colonies. Their great activity in scientific research and in the study of transportation, marketing, and general economic conditions is sufficient evidence of their keen interest in the future of the Tropics. (終)

春は来たか

碓氷 茂

世は總て新緑に蘇つてゐる。生命ある總てのものは一勢に生の歡びを呼吸し始めた。古いものが去つて新しいものが動き始めた。

だが然し蠶糸業の現状は未だに陰鬱な空気に包まれてゐて、いつ新緑の世界が展開して来るか見當がつかない。春は來てゐるが未だに重苦しい何物かが掩ひかぶさつてゐる。四月二十日には全國製糸業者の有志懇談會が丸ビルの會議室で開催された。勿論現在のこの猛烈な不況に處する對策を協議したのだ。火の出る

やうな悲鳴が業者によつてあげられたがその結末は結局われわれの想像した通り大したものではなかつた。即ち蠶糸業の前途を明るくするやうなものではなかつた。ありふれた政府への陳情程度に止つて了つたのだ。

尤も蠶糸業の現状詳しくいへば資本主義經濟の現段階に於て名案の淨んで来る筈はない。所詮は困つた困つたに終つて了ふにきまつてゐる。

政友會が金の輸出再禁止によつて世の中を好景氣にして見せるといきまいたのは總選舉の直前の話だ。金の輸出を禁止したからといつて好景氣が芽を吹くなどと勿論こちらでは計算に入れてゐなかつたが現在では明かにこちらの計算の正しかつたことが裏がきされた。

今頃あの選舉があつたとしたら政友會のあんな筈な得票はなかつたらう。結果から見ればわれわれは明かにベテンにかけられたといふものだ。尤もそれがベテンである位のこととは豫め知つてはゐたが。

トーカー時代が出現したためあの特殊な聲をはりあげて映畫ファンを熱狂せしめてゐるシネマ辯士恐慌時代を出現してゐる。こゝ一、二年間經過したら或は全日本のシネマ辯士が一人残らず清算されて了ふのかも知れない。目下生活におびやかされんとしつゝあるシネマ辯士達が興行主側と抗争中だが所詮はじび行く階級ではある。これも資本主義社會に於ける科學の進歩の生んだ哀れむべき犠牲者の群である。

今東京ではゴーストツブが自動式機械に變りつつある。統計の教ふるところでは現在市内目抜の十字街に自動信託機を取り付けたもの三十八しかもそれが筈棒に成績が良好だといふので今年の五月中には更に三十ヶ所増設されることに決定したといふ。こゝ一、二年の間にはその大部分が自動式に變つて了ふだらう。その結果はどうなる。いはずと知れた緑色・腕章の交通ポリさんの失業だ。これも機械の進歩の生んだ哀れむべき犠牲者の群の一。

今日(昭和七年四月二十一日)の東京朝日新聞によるとインチキ私立學校がうようよしてゐるらしい。醫專藥專それから中等學校何とかいふ自由教育をモットーとする學園それらが生徒の入學退學に關し金をままあげたり學校所有地の強制的賣付けたりしてゐるといふ。しかもそれが大きな顔をしてやつてゐるといふのだから驚く。この不景氣ではさうでもしなくてはやつて行けまいが中には懐を肥やす目的を以つてやつてゐるのがあるらしい。何とか學園とかいふのがそれだ。

以上は新聞の教へてゐる事項に屬するが僕はかういふ例を知つてゐる。某私立の醫學專門學校へ非常に頭の悪い男が入學した。あんな男でよく入學することが出来たものだと思つて調べて見ると二千五百圓納めたおかげで入學出来たのだ。勿論入學試験はある。だがこんな手合ひのインチキな學校になると入學試験など問題ぢやない。金を納めた男から取つておいてそのおあまりだけを試験の

成績のよかつたものに分けてやるのだ。それもよからう。だがお陰で被害の甚大なのは病人だ。いゝ面の皮さ。今、醫者仲間には聽診器の聞えない男が少なからずあるさうだがそんなのは恐らくこんなインチキな學校卒業生中にはうようよしてゐるだらうよ。

宛に角妙な世の中になつたものだ。(一九三二、四、二二)

廣告

中曾根長男

まだ明けやらぬ朝霧の中を列車は無我夢中に走つてゐた。とぼけた様な顔をした俺を食堂車のボーイがクスクス笑ひながら朝の挨拶と食堂案内を殘して行つた。

「お早う御座います只今今朝食の用意が整ひましたどうぞお越し下さいませ四十錢」

として磯なれ松と海邊の景色が印刷されてゐる。顔を洗つて漸く濟まし込んだ所へ馴れた顔をした食堂ボーイが廣告を置いて行つた。

「五十三次大井川……毎度有難う御座いますお待ち遠さまで御座いますいで下さいませ、食堂車は列車の中央に御座います。」

大變なものだ一日に大井川を三回も通つてゐる而も關西に入つてもまだ大井川。而も昔の殿方が運台の上に乗つて、雲助共が曲りなりに之を擔いで渡つてゐる繪が古風なものだ。

こんな繪に引込まれながら朝食をしてゐる中にふとレール線の鐵道廣告を集めて見たくなつて來た。丁度列車は大阪を發車する所だ。此の事

は氣に掛る様なメスが近くに同車した時はいざ知らず。兎角退屈勝な事も話し相手のない列車内で私しを非常に喜ばせて呉れた。だが此の企は結果に於て勝れて嬉しものではなかつた。何となれば急行車の窓から

之を通覽すると何と云ふても藥品類、營養劑が主なるもので、次ぐものは飲料及石鹼類である。藥品中特に多きは性病次は胃腸病に關するものである。

1、飲料及強壯劑

- キリンビール、○サクラビール
○酒の司、○大關、富貴、白鶴
○正宗、○福娘、千福、アタ美鶴
○ミヨシ、○正宗、一勝、千代の春、○龜崎、○福美人、○赤玉ボートワイ

- ネオベクトン、朝鮮ソレイトム、ネオベクトン、朝鮮
○ロート目薬、大學目薬、○回効散、ノーション、後藤デシン、リベール、○仁丹、清保腦藥、アイフ(胃腸良藥)、○中將湯、命の母、マクミン、日本丸、○寶丹、メン

3、菓子類

- 森永ミルクキャラメル、○明治ミルクキャラメル、森永チョコレート、○森永ミルクチョコレート

4、化粧品

- 花王石鹼、○パール石鹼、○パール石鹼、○パール石鹼、○パール石鹼、○パール石鹼

5、足袋

- アサヒ地下タビ、○オニタビ、○キラタビ、○ツチヤタビ

6、雜

- オニタビ、○キラタビ、○ツチヤタビ
○多木肥料、トローグゴム齒白

選科生入學許可

本年四月選科生として入學を許可せられたる者左の如し。
福島 大野四郎 三重 本居高行
長野 米澤俊吉 島根 菅野喜通
群馬 小川茂治 長野 宮坂正則
野本信次

異端の目

蕉

必ずしも無氣味な視線を意味しない。風俗、習慣、民度の悉くを異にした吾々在滿邦人の目は當然在滿支那人の誰彼からもそう見られるだらう。異端の目！必ずしも悪意の籠る

目がぢやない。然しこの目に何が映つたか！
此は争はれぬものだ

沖、横川の勇士が「日本人」と感付かれたのは顔を洗つた時だと云ふ。何故？斯んな時に日本人は手を動かすけれど顔は余り動かさない。然し、支那人は……、斯の反對だと云ふ。

汚い話で恐縮するが……最初から汚い話で恐れ入つた話だが、此は争はれないものだ云ふ話の序手に……。田舎道を歩くときと出遭ふ話だが、人家の壁際などで野糞をして居る景色に出會す。然も斯んな時の男は必ず壁を背に正面を向いて堂々とやつて居るのだから大概こちらが顔負けする。

農友、Kが遭遇した話。
それは「斯んな汚い茶碗ぢや駄目ぢやないか！」と云つたら其處の支那宿の給仕が「ヂヤツ」と云つて早速拭いて呉れたと云ふ譯、然も何とそれは室の入口に垂れ下がつた汚れた白布で、それも先刻宿の主人が通りすがりに手鼻を拭いたその痕も鮮に残つたそれで！

食器の色
斯れば僕が發見した事だ！と一寸俵張つて見るが、斯んなこそ本當に異端の目かも知れない。
滿洲で田舎の人達は實に親切だ。それで吾々等が行くと早速、御茶、砂糖湯等を恵んで呉れる。然も斯かる時碗底に必ず残るものは諸君よ！砂だ。

即滿洲では何處へ行つても(勿論例外もあるが)清冽、掬すべき様な水は無い。従つて！と一寸三段論法的になるが、滿洲何處の陶製食器店に行つても純白な瀬戸物に接しな

灰色の茶碗や、小皿は、だから敢へて云へば「Hoo's(黄土)」と因果關係がある。

何が故に黄色を好むか
滿洲國々旗の色は黄色。前の清朝時代の國旗は黄色地に龍だつたと記憶する。黃龍は支那人が好むのだから察せられないやうに用心しろ。と云ふ農夫の注意を受けた事がある。

「と斯んな様な事を氣が向いたら引續き二、三回報告しやうかとも思ふ。」
たゞ、それ黃塵(胡塵)一度起れば天も地も山も河も、そして目も口も黄一色に塗り潰される事だけは事實である。

高登關會見記(二)

Y K 生

高登關は本名を吉川渉と云ふ、天龍川の片邊り下伊那郡喬木村に三人兄弟の末子として呱呱の聲をあげた元來吉川家は土地の舊家として代々蠶絲業を営み來つたが父國治氏は同家を名うての蠶種製造家に築き上げ一身に聚めたものであつた。

因襲的に考へると三人兄弟の中誰かが當然此の衣鉢を繼ぐべきであるが三人とも揃ひも揃つて生活戦線へ異端者的進出をして居るのも不思議な廻り合はせである。
長兄は吾が同窓吉川孟文氏であつて本校養蠶科(第八回卒)に學ぶあたりは頗る順調な出發であつたが京都帝大經濟學部に入るに及んで蠶絲業から急角度の旋回を行ひ現在では京都市に在職して居ることは御承知の

通りである、次兄は軍人志望とあつて士官學校へ入つたが業中半に此の生業に見限りをつけ忽ち兄譲りの方向轉換を策し第三高等學校を経て東京帝大文科を卒へ新聞記者生活に足を入れて了つた、其所で定石では後殿の涉氏が家業を守りながら、天龍河畔の月を眺めると云ふ風流な運命に置かれねばならぬことになる、額才を兄に持つた恐しさでも云へやうか！冷飯草履の身ではあるが驥足を郷關の外に延ばすことも出来ず雄圖を空しく抱いて與へられた運命を甘受しコソコソと土に親しんで居た、村の小學校を終ると附近の龍東農蠶學校に學び専ら家業を繼ぐの準備を怠らなかつた。

だが渉さんは小さい時から角力が非常に好きであつた、此の好角の性は寧ろ父さんから其の傳はつたと見てもよろしい、實際父さんの角力好きも有名な話で晩酌を傾け盡すと御機嫌のよい時は屹度子供達を集め疊の上で角力を取らせ長火鉢の上に乗せたり出して勝つた褒美に酒杯を握らせ手を叩いて喜んだものであつた、渉さんは成人するに及んで持つて主れた氣質はメキメキ、本質を表はし偉大な体軀と均勢の探れた筋肉には誰だつて齒向ふことが出来なかつた、よく天龍河原で鋤鉄をほつたらかして自分よりばるかに年長な作男と角力つたものであつたが到底彼の敵ではなかつた。
環境は如斯きものであり年齒尙うら若かくして春秋に奮み天與の體質は素晴らしく良いと来て居る、蛟龍長く池中の物足らざるを得ないではないか。
彼が現在の高砂部屋に入るのにはまづは一條の面白いエピソードがあるが故ではオミットすることにするたゞ切角の後繼者を空手でウツチャリをくれる父さんが誰よりも贊

成して自ら東京迄出場すると云ふ熱心さを附言しないわけにはいかない。つまり下地はうまし御意はよしと云ふ所もあらうが此の犠牲的な態度が孝心深い高登閣を躍進させずにはおこなかつたのである。

大休の豫備智識は此の位にしておいて本論の面會記に移ることにする。

學校だより

上田の陽氣 今年は一、二月頃ろくに雪も降らずスキーヤーやスケーターを泣かせたほど馬鹿暖かであったが三月下旬より四月一杯非常に寒かつた。その爲め校内の吉野櫻も例年は二十日頃開くのに今年は四月二十七、八日が見頃であつた。いつもの年よりも一週間乃至十日位は遅れて居る事だらう。

蠶蠶供養祭と新入生歓迎會

蠶蠶供養祭は四月廿日午後〇時半から職員學生參列の下に別所常樂寺半田孝海師の代僧によつて厳かに執行された。式後午後二時から新入生の歓迎會が道場に於て行はれ午後四時和氣齋々裡に閉會した。

井會

教務課長井上教授の發案で學校では毎月の第三土曜日に職員全部が會議室に集まり晝食を共にし會談することとなつた、而して晝食は前以つて注文しておき何んでも好きなものをとることとしてある。

菅平にヒユツテ建設

冬、夏の菅平を満喫する爲め校友會に於ては菅平にヒユツテ(山小屋)を建設することとなり此の七月中には出来る筈、その建築費約五〇〇圓三間に四間の二階造り式の建物、此れからの校友會山岳部は斷然發展することだらう。

學生猫岳登山

五月一日井上學

生課長が思想指導の目的を以つて學生と共に猫岳登山を試みられた山上の垂訓とまでは行かなくともその目的は相當に達せられたことと思ふ。

消防演習

五月二日午後。時廿分から校庭に於て職員學生總出動で消防演習が行はれ後校長及び石倉先生から種々有益なる訓話があつた。

養蠶部

養蠶科打合せ會 遠藤教授が養蠶科長となつた後の最初の養蠶部會が四月十五日に開かれた、その會に於て今年度の養蠶實習上の打合せを行つた、而して實習部の掃立前のプログラムは大休次の如く決定した。

蠶室蠶 四月十六日 四月廿三日
具洗蠶 四月廿三日 五月三日
蠶室蠶 五月三日 五月七日
具洗蠶 五月七日 五月十日
蠶室蠶 五月十日 五月十三日
具洗蠶 五月十三日 五月十六日

蠶室蠶 五月十六日 五月廿日
具洗蠶 五月廿日 五月廿三日
蠶室蠶 五月廿三日 五月廿七日
具洗蠶 五月廿七日 五月三十日

蠶室蠶 五月三十日 六月三日
具洗蠶 六月三日 六月六日
蠶室蠶 六月六日 六月十日
具洗蠶 六月十日 六月十三日

蠶室蠶 六月十三日 六月十七日
具洗蠶 六月十七日 六月廿日
蠶室蠶 六月廿日 六月廿三日
具洗蠶 六月廿三日 六月廿六日

蠶室蠶 六月廿六日 六月廿九日
具洗蠶 六月廿九日 七月初一日
蠶室蠶 七月初一日 七月初四日
具洗蠶 七月初四日 七月初七日

蠶室蠶 七月初七日 七月初十日
具洗蠶 七月初十日 七月十三日
蠶室蠶 七月十三日 七月十六日
具洗蠶 七月十六日 七月十九日

蠶室蠶 七月十九日 七月廿二日
具洗蠶 七月廿二日 七月廿五日
蠶室蠶 七月廿五日 七月廿八日
具洗蠶 七月廿八日 八月初一日

蠶室蠶 八月初一日 八月初四日
具洗蠶 八月初四日 八月初七日
蠶室蠶 八月初七日 八月初十日
具洗蠶 八月初十日 八月十三日

蠶室蠶 八月十三日 八月十六日
具洗蠶 八月十六日 八月十九日
蠶室蠶 八月十九日 八月廿二日
具洗蠶 八月廿二日 八月廿五日

蠶室蠶 八月廿五日 八月廿八日
具洗蠶 八月廿八日 九月初一日
蠶室蠶 九月初一日 九月初四日
具洗蠶 九月初四日 九月初七日

蠶室蠶 九月初七日 九月初十日
具洗蠶 九月初十日 九月十三日
蠶室蠶 九月十三日 九月十六日
具洗蠶 九月十六日 九月十九日

蠶室蠶 九月十九日 九月廿二日
具洗蠶 九月廿二日 九月廿五日
蠶室蠶 九月廿五日 九月廿八日
具洗蠶 九月廿八日 十月初一日

蠶室蠶 十月初一日 十月初四日
具洗蠶 十月初四日 十月初七日
蠶室蠶 十月初七日 十月初十日
具洗蠶 十月初十日 十月十三日

蠶室蠶 十月十三日 十月十六日
具洗蠶 十月十六日 十月十九日
蠶室蠶 十月十九日 十月廿二日
具洗蠶 十月廿二日 十月廿五日

蠶室蠶 十月廿五日 十月廿八日
具洗蠶 十月廿八日 十一月初一日
蠶室蠶 十一月初一日 十一月初四日
具洗蠶 十一月初四日 十一月初七日

蠶室蠶 十一月初七日 十一月初十日
具洗蠶 十一月初十日 十一月十三日
蠶室蠶 十一月十三日 十一月十六日
具洗蠶 十一月十六日 十一月十九日

蠶室蠶 十一月十九日 十一月廿二日
具洗蠶 十一月廿二日 十一月廿五日
蠶室蠶 十一月廿五日 十一月廿八日
具洗蠶 十一月廿八日 十二月初一日

蠶室蠶 十二月初一日 十二月初四日
具洗蠶 十二月初四日 十二月初七日
蠶室蠶 十二月初七日 十二月初十日
具洗蠶 十二月初十日 十二月十三日

蠶室蠶 十二月十三日 十二月十六日
具洗蠶 十二月十六日 十二月十九日
蠶室蠶 十二月十九日 十二月廿二日
具洗蠶 十二月廿二日 十二月廿五日

蠶室蠶 十二月廿五日 十二月廿八日
具洗蠶 十二月廿八日 元月初一日
蠶室蠶 元月初一日 元月初四日
具洗蠶 元月初四日 元月初七日

蠶室蠶 元月初七日 元月初十日
具洗蠶 元月初十日 元月十三日
蠶室蠶 元月十三日 元月十六日
具洗蠶 元月十六日 元月十九日

蠶室蠶 元月十九日 元月廿二日
具洗蠶 元月廿二日 元月廿五日
蠶室蠶 元月廿五日 元月廿八日
具洗蠶 元月廿八日 元年三月初一日

蠶室蠶 元年三月初一日 三月初四日
具洗蠶 三月初四日 三月初七日
蠶室蠶 三月初七日 三月初十日
具洗蠶 三月初十日 三月十三日

蠶室蠶 三月十三日 三月十六日
具洗蠶 三月十六日 三月十九日
蠶室蠶 三月十九日 三月廿二日
具洗蠶 三月廿二日 三月廿五日

蠶室蠶 三月廿五日 三月廿八日
具洗蠶 三月廿八日 四月初一日
蠶室蠶 四月初一日 四月初四日
具洗蠶 四月初四日 四月初七日

蠶室蠶 四月初七日 四月初十日
具洗蠶 四月初十日 四月十三日
蠶室蠶 四月十三日 四月十六日
具洗蠶 四月十六日 四月十九日

蠶室蠶 四月十九日 四月廿二日
具洗蠶 四月廿二日 四月廿五日
蠶室蠶 四月廿五日 四月廿八日
具洗蠶 四月廿八日 五月一日

蠶室蠶 五月一日 五月四日
具洗蠶 五月四日 五月七日
蠶室蠶 五月七日 五月十日
具洗蠶 五月十日 五月十三日

新舊兩科長送迎會 天長節の佳節を卜し養蠶職員總出動にて戸倉温泉征屋ホテルに於て井上舊科長と遠藤新科長との送迎會を催したその席上昔の話など出で時の移るを知らず夕刻太陽が山の端にかくれる頃和氣齋々裡に歸田の途についた。

養蠶科三年生紅葉山御養蠶所拜觀旅行 養蠶科三年生は例により紅葉山御養蠶所拜觀の爲め古谷教授に引率され五月三日午後十時上田出發上京した、歸りは六日となる

管お山の大将を氣取つて江戸へ出で赤毛布をひろげて歸へることだらう。

製絲部

どうかと思はれた製糸科本年度卒業生の就職も林先生の何時もながらの御熱心な御骨折に依つて左記の如く生絲検査所の七人を大關にむしろ前年以上の好成绩で百分決定した。次に御承知の如く昨年度より教授養成科が設けられ、本年度は多数志願者の中から詮衡に依つて十一名入學許可された、所が困つた事には一年二年と二學級になつたので教室が足りなくなつてしまつた、そこで思案の末が元の瓦斯發生室を生徒控室と云ふ名前で使用する事になり只今改築の最中であるその中には立派な教室が出来る事と思ふ。

製糸部も大部延長した譯である。此の養成科が出来たために、物理の志田先生が専任として四月から製糸部においてになり、又本年度卒業生の大木定雄君も製糸部におられる事になり、大部賑やかになつた。

今に始まつた事では無いが、製糸部の人口過剰(と言ふと語弊があるが)に狭隘と云ふ意味だから誤解なく)に困つて居る。工場は勿論小さい實驗室もなく、折角機械を買つて貰つても置く場所がないと云ふ仕末、なんとかして貰はなければいけないと思つてゐる。さて?

紡績部

織物工場の新設備 紡績から織物までの一般、と云ふ母校紡績部の工場設備も紡績の方は兎も角、織物の方は今までは唯織上げると云ふまで、それを仕上げる設備は殆んどなかつたため實驗に實習に随分不自由な思をして来たものでどうか仕上の設備を欲しいとは常に我々の翹望

してゐた處であつたが、今度愈々此の多年の宿望が叶ふてそのうちのテント、カレンダー、ダンピング等の諸機械が設備される事になり既に機械も到着して目下その据付中である。場所は今迄手機室であつたあの鏝屋根の紡績工場建物の一番西の端の一室、昔の工業化學の實驗室である。此處は室も廣くて丁度テントの如き長大な機械を入れるにはあつらへ向だし、位置も原動室に近くてスチームの取入れにも都合よく織物仕上工場としてはまあ恰好な場所である。

辭令

公立實業學校教諭 天田晉三郎
四月ヨリ年功加俸年額百五拾六圓下賜
(四二一長野縣)
地方農林技師 菅澤隆三
十一級俸下賜(四二〇栃木縣)
公立實業學校教諭從六位 大石卓爾
公立實業學校舍監二兼任ス、加俸年額六拾圓下賜

蠶絲科學講演集第三輯刊行豫告

大變延々して居りました講演集第三輯は愈々五月初旬發行の運びとなりました。現下深酷なる不況の打開蠶糸業更生の一助として、是非御購讀を希望致します。

一價格 約貳圓
一御希望の方は至急本會蠶糸科學講演集係宛御申込を乞ふ。

近刊蠶絲科學講演集內容

- 蠶の白癩病菌の生態並に防疫に關する研究 勝 又 藤 夫 氏
- 蠶絲業の改良と蠶絲科學 長野縣蠶業試驗場技師 勝 又 藤 夫 氏
- 蠶絲業の不況と其の對策 農林省蠶業試驗場技師 平 塚 英 吉 氏
- 養蠶業經營の本質と其の指導原理 農林省蠶業課長農學士 明 石 弘 氏
- 蠶絲張力に關する研究 蠶絲業同業組合中央會參事 野 崎 清 氏
- 夏秋蠶期に發生する軟化病に就て 上田蠶絲專門學校教授 林 貞 三 氏
- 生絲相場論 長野縣蠶業試驗場場長 水 井 壽 一 郎 氏
- セリシンの物理化學 東京高等蠶絲學校教授 福 本 福 三 氏
- 地方農林技師 上原 清夫 (三)
- 地方農林技師 齊藤 菊雄 (三)
- 地方農林技師 芝 荒雄 (五、三)
- 地方農林技師 古山 宗八 (三)
- 地方農林技師 勝 又 藤 夫 氏 (五、三)
- 地方農林技師 永田 平 (三)

